

# 職員全員が急変に対応できるために 重要な切れ目のない救命の連鎖

救急災害医療委員会主催の「急変対応勉強会」が6月17日に城西病院で開かれました。この勉強会は、達生堂グループの新入職者が、職場やふだんの生活で急変者に遭遇した時、適切な対応が取れるよう毎年開催しています。今年は、新型コロナウイルス感染防止のため、1回の参加者を24人に抑えて開かれました。

勉強会は、委員長村田智史医師により、CPA（心肺停止）の急変者を発見した時、反応の確認、通報、心肺蘇生（胸骨圧迫やAEDによる処置）を医師やJRRT（城西グループ急変対応チーム）が到着するまで切れ目なく行う、「救命の連鎖」を学びました。「大切なことは、必ず人を呼ぶこと」と話し、JRRTコールで医師や看護師を招集するとともに、AED（自動体外式除細動器）や救急カートを持ってきてもらい、心肺蘇生などを行う、救命の連鎖を解説しました。

実技では、4人が1チームとなり、ダミーを使って胸骨圧迫やAEDを体験。胸骨圧迫では、1分間に100～120回を目安に胸部を約5cmの深さで圧迫、戻す作業を繰り返すことを、JRRTメンバーの指導で体験しました。

AEDは基本的な使い方を体験しました。急変者を発見、急変者の意識や脈を診た後、心肺蘇生を開始。AEDが到着した後は、機械の指示に従い、急変者にパットを貼って電気ショックを与えた後、心肺蘇生を続け、これを繰り返していくことを学んでいきました。

2019年6月18日

